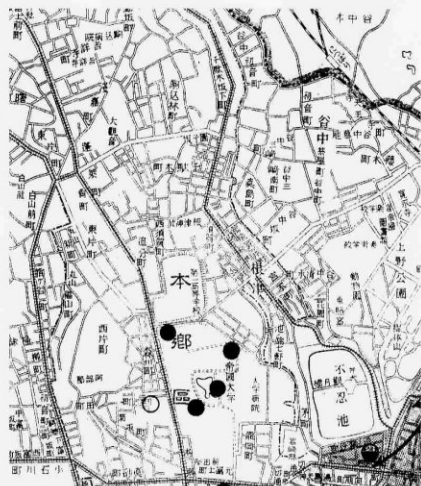


# 群馬県救護団の結成



〔大正震災志附図より〕

左の史料は、大震災群馬県救護団東京出張所の簡略図です。  
 大正12年（1923）9月1日午前11時58分、マグニチュード7.9の地震が関東地方南部を襲いました。この関東大震災で被害にあった地域は、東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城・静岡・山梨などで、中でも東京と横浜は大きな被害を受けました。

被害は、死者10万人近く、負傷者や行方不明者も大勢出て、罹災者数はおよそ340万人となりました。地震が起こった時刻が昼食時であったため、各地で出火し、地震に伴う火災は、東京では9月3日未明まで燃え続け、地震で助かった人でも火災で命を落とす人が大勢でした。特に本所の両国にあった除軍被服廠跡では、火災が激しかったため、そこだけで約3万人が命を落としました。

群馬県では、消防団員や医師、警察官などを中心とした救護団を組織し、大震災群馬県救護団東京出張所を、駒込の天台宗大学内（現文京区千駄木）に設けて、群馬県から持ち込んだ救援物資を利用しての救護活動を行いました。

